福島県双葉郡教育復興推進協議会　－国立大学法人　福島大学－

（福島県双葉郡8町村：大熊町、葛尾村、楢葉町、浪江町、富岡町、広野町、川内村、双葉町）

報告概要

資料9

取組全体の概要：　福島第一原発事故による厳しい状況に直面している福島県双葉郡において「福島県双葉郡教育復興ビジョン」を踏まえ、全国のモデルともなる人材育成と新たな産業の創造やコミュニティの活性化等の相乗効果を生む復興を推し進める。

取組の先導性：　人口減少や高齢化の急速な進行、地域コミュニティの維持、新たな産業の創造等の課題は、全国の多くの地域が直面する課題とも重なる。人材育成と地域活性化がかみ合い相乗効果を創出するモデルは今後全国で求められる。

これまでの主な実施取組の内容

取組① 福島県双葉郡教育復興に関する合議体の開催を通じたモデル形成

○「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」を設置し、町村・県・国・地域・有識者等によるビジョンの具体化を協議

- **計5回の協議会開催**

○ 地域・NPO・教職員・有識者等が参画するワーキンググループを協議会のもとに設置し、個別テーマについて具体化を協議

- **WG① 各町村立幼小中学校間の連携　計5回の開催**
- **WG② 多様な主体との連携　計4回の開催**
- **WG③ 避難している子供たちや住民との絆づくり　計6回の開催**

○ H26年度からの取組に向けた全校の担当教職員研修

（全町村立小中学校教職員等77名で実施、福島大学等主催のシンポジウムで双葉郡関連の内容を取り扱い郡内教職員等が参加）

○ その他特筆すべき成果を挙げた経験者の知見を取り込んだ検討

・シュライヒャーOECD教育局次長意見交換

・島根県海士町や宮崎県五ヶ瀬町等の全国の先進地域の有識者との協働検討会等（海士町検討会議、五ヶ瀬町検討会議、研修講師招聘、その他会議への有識者としての招聘複数回、海士町訪問、宮崎県五ヶ瀬町訪問）を行った。

取組② 子供たちや保護者との対話を通じた合意形成

○「福島県双葉郡子供未来会議」を開催し、子供たちや保護者の意見聴取と理解促進を進め、ビジョンの具体化の協議（取組①）に反映

- 子供未来会議①（10/26、郡山市、公募児童生徒・保護者等59名）
  □子供未来会議第一期報告書検討会（12/23、郡山市、代表生徒6名）
- 子供未来会議②（1/13、いわき市、サテライト高校生徒教員等49名）
- 子供未来会議③（2/19、広野町、各町村立小中高生等77名）
- 子供未来会議④（3/27、郡山市、これまでの参加者・避難者等）
- 子供たちや保護者の理解促進のため、これまでの実施内容とビジョン概要をまとめた冊子を作成。
- ※これまでに子供未来会議に参加した児童生徒の意見を取りまとめ、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会に提出

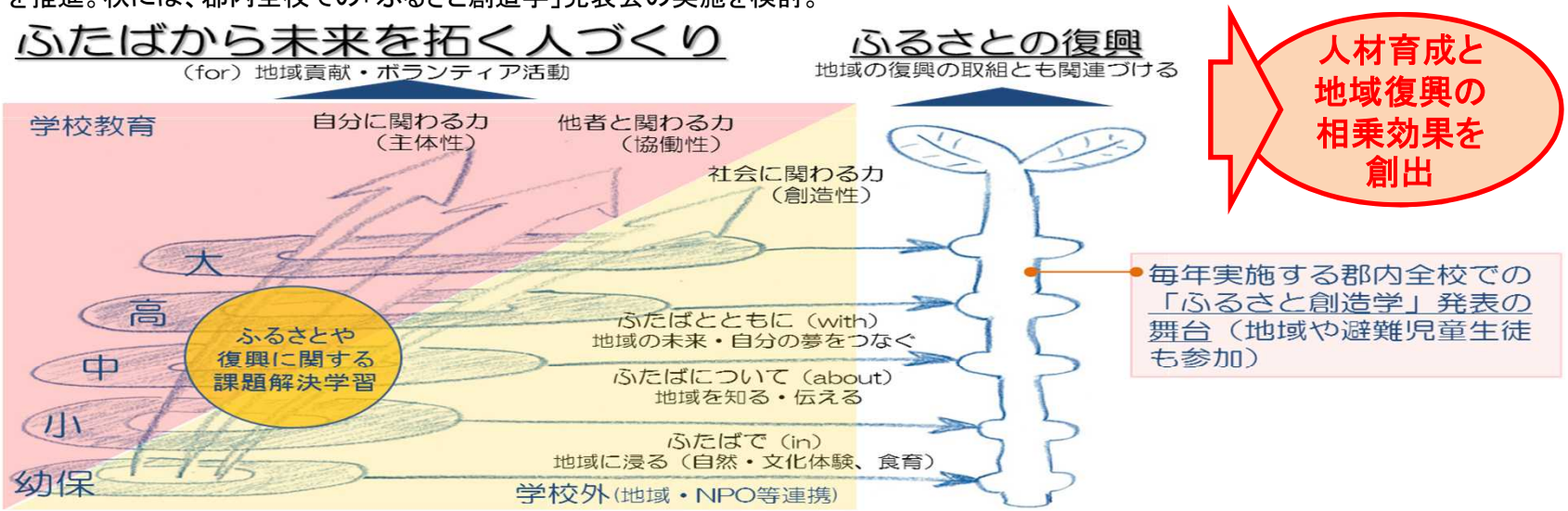
取組③ 双葉郡教育復興ビジョン推進計画の策定

○ 取組①②を踏まえて、先導モデルとしての推進計画を策定（別紙参照）

得られた成果 ①

○「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画（平成26年3月31日版）」を作成。平成26年度から先行して実施する取組について具体的内容を策定。
例1）平成26年度から双葉郡内の小学校・中学校・高等学校で、ふるさとや復興に関する課題解決学習『ふるさと創造学』に着手
例2）双葉郡教育復興ビジョンを実現する地域総がかりでの教育復興推進体制と施設について方向性を策定、継続して具体化する
○ 全国でも特筆すべき成果を挙げた教育を契機とした地域活性化の先進地域（島根県海士町、宮崎県五ヶ瀬町等）や、各種団体（地域団体、企業、NPO・財団等）との継続的な協働関係を構築。
○ 子供未来会議の開催等を通じて、子供たちや保護者の参画が進んでいる。地域の次代の担い手である若い世代の参画は、学校づくりのみならず本取組の目指す人材育成と地域づくりの相乗効果の創出においても重要な要素となる。
○ 上記「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画」で策定した取組を推進するための事務局を設置（12月）し、要員の確保に着手。

策定した取組例1）平成26年度から双葉郡内の小学校・中学校・高等学校で、ふるさとや復興に関する課題解決学習『ふるさと創造学』に着手
○ 双葉郡教育復興ビジョンが掲げる**人材育成（復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で貢献できる人材を育成）と、地域復興（子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、新たな産業の創造やコミュニティの活性化につなげる）の相乗効果の創出**を目指す。
○ 郡内各校の総合的な学習の時間で共通して『ふるさと創造学』に取り組むことから始め、各教科等教育課程全体を見通して実践。
○ 平成26年度は『ふるさと創造学』で下記の資質・能力を育成することを目指す。各校や子供たちの実態を踏まえつつ、自校化した内容で取組を推進。秋には、郡内全校での「ふるさと創造学」発表会の実施を検討。



『ふるさと創造学』
○ ふるさと双葉郡の伝統文化や、復興の課題、復興に向けて力を尽くす国内外の人に触れる
○ 自らの生き方とふるさとの未来を重ね合わせて考える
○ 実践的な課題解決型の学習（アクティブラーニング）で実践力をつちかう
（取組例：伝統文化継承、復興についての提言、震災や原発事故の記録・記憶の継承と発信等）

（ふるさと創造学で特に重視する資質・能力）

ふるさと創造力、文化・伝統理解
ふるさとに生まれた誇りと、文化や伝統を大切にする姿勢を持ち、ふるさとの魅力を伸ばせる力

ふるさと表現力、ふるさと発信力
被災の経験や復興についての提言を次世代や国内外に伝える表現力、発信力

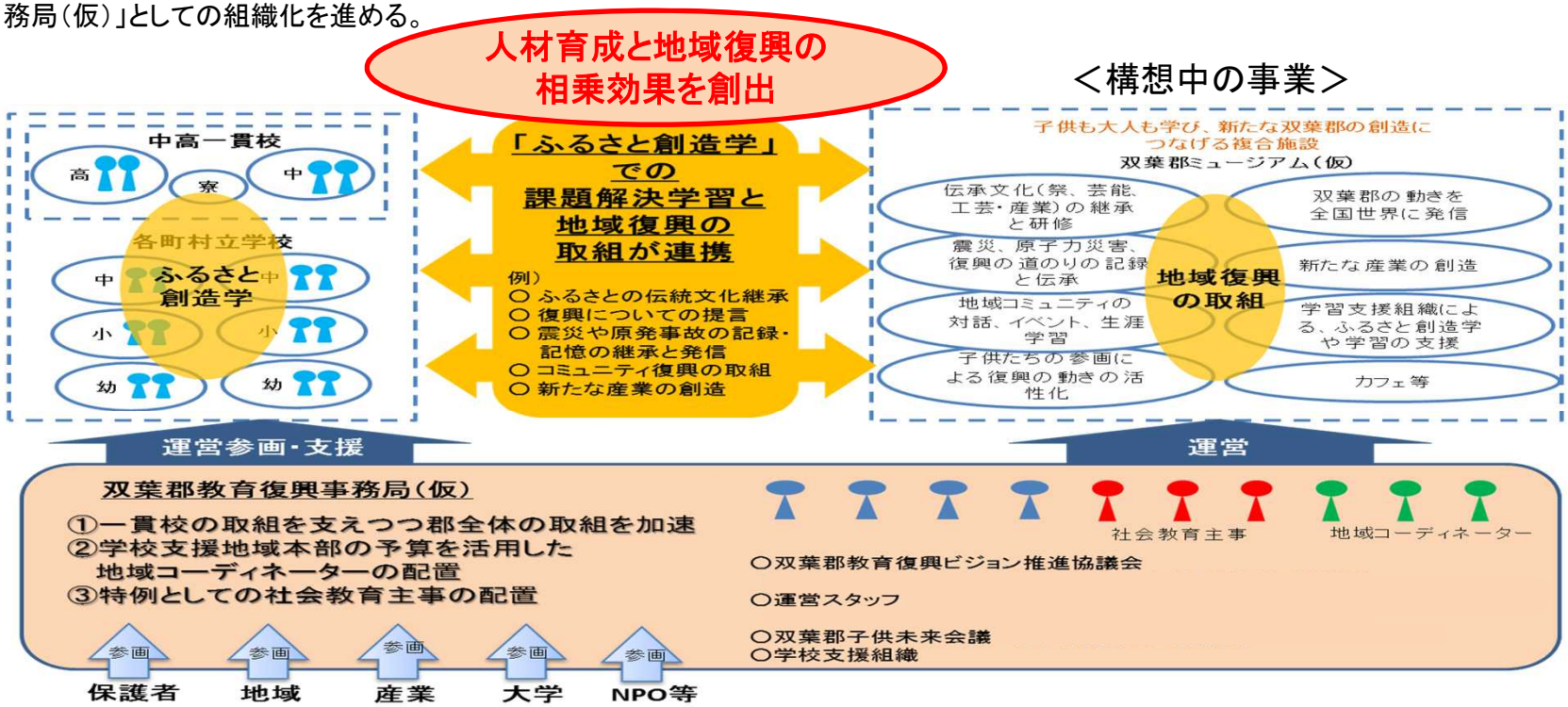
得られた成果②

策定した取組例2）双葉郡教育復興ビジョンを実現する地域総がかりでの教育復興推進体制と施設について方向性を策定、継続して具体化する

○ 双葉郡教育復興ビジョンが掲げる**人材育成（復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で貢献できる人材を育成）と、地域復興（子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、新たな産業の創造やコミュニティの活性化につなげる）の相乗効果の創出**を目指す。

○「ふるさと創造学」での課題解決学習と地域復興の取組の相乗効果を生み出すために、ソフト面での取組の連携を推進。同時にハード面での学校施設の複合施設化等の構想の具体化を今後検討していく。

○ 一貫校の取組を支えつつ郡全体の取組を加速させるとともに、各町村の学校の取組を加速させるための体制を整備し、「双葉郡教育復興事務局（仮）」としての組織化を進める。



今後に向けた課題・活動の見通し

○ 平成26年度から先行して実施する取組（得られた成果で示した例1、2等）を推進し、平成27年度の中高一貫校の開校時には郡内各町村横断かつ学校段階を横断して、教育復興と地域復興の相乗効果を創出することにつなげていく。具体的には**「ふるさと創造学」を軸としながら、地域の伝統文化伝承や、全国への発信、新たな産業づくりの検討等の復興の取組と連携**を行っていく。

○ 避難が長期化する中で、避難児童生徒や保護者の理解を促進することは大きな課題があった。ビジョンの趣旨を実現し、双葉郡の復興や子供たちの帰還につなげていくためには、今後予定される中高一貫校の生徒募集等の重要な機会に応じた**情報発信を強化**していくことが必要。

○ **事務局体制を強化するとともに、保護者・地域・産業・大学・NPO・財団等との連携を強化**し、上記の推進につなげていく。また、「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画」の詳細化・見直しを逐次行いながら取組を推進していく。